
終わりは始まり

使い捨てレンズ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わりは始まり

【Nコード】

N5062D

【作者名】

使い捨てレンズ

【あらすじ】

ある試験の結果発表待ちの受験生の女の子「私」の心情をリアルに表現してみました。結果は分かっている。受験の結果は本人が一番分かっているものだから。ただ奇跡というものを信じてしまう。奇跡なんて選ばれた人間が起こるまれな事なのに。それと一番怖いのは・・・取り柄をなくした私から彼がいなくなること・・・

（前書き）

この主人公の「私」は被害妄想癖が激しすぎだろ！って人によってとらえてしまう部分あると思いますが、私自身軽い被害妄想壁があるのでお許しを！w w

12月5日

私はパソコンの前でドキドキしていた。

時間が一分経つごとに心臓の鼓動は早くなる。

そう、私は試験の結果発表を待っていた。

その試験は午後1時インターネットで発表なので

私はお昼も食べずに部屋のパソコンの前に居座っていた。

普段、彼氏に

「なんでそんな食欲旺盛なの？」

って聞かれるくらい私はよく食べる。

我が家で献立にカレーライスが出ると

私は二杯分用意されるというのは

我が家の習慣になっていた。

下の台所からは

カレーの匂い・・・いや違うな・・・

ハヤシライスかオムライス系？

匂いの嗅ぎ分けができるくらい

私にとって食べ物は彼氏以上に近い存在なのかも。

その証拠が最近お腹にでてるけどね。

まあ今の私にとってはそんなに大差ないけどさ。

12月4日夜

「いよいよ明日だなあ」

つて隣で彼氏が言った。

「だねえ。でもそんな実感しないかも」

「もう結果はでてるもんな。受かってたら明日ケーキ届けに行くよ」

「ホントに？めっちゃ嬉しいよ」

「また太るな。」

「ひどいよバカ！」

「冗談だよ。ほんとに受かっていてほしいよ。そしたら俺の試験の励みにもなるしさ。」

彼氏は

アルバイト先で知り合った。

そして私よりかなり年上である。

そして彼もある試験を目指していた。

しかし、その試験は合格率が数パーセント
大部分の受験者が落ちている。

頭の良い彼でさえ8年かかっているが
未だに合格できない。

同時に

彼は諦めかけていたらしい。

試験をあきらめるどころか

人生も諦めかけていたという・・

同世代の友達のみなエリート企業のお偉いさん。

しかし自分は受験生

そのギャップが苦しかったらしい。

そんなときに私と出会った。

彼曰く

私がバイトの休憩中までも

参考書と睨めっこして

バイト帰りも

単語帳を見ながら帰る

姿に惚れたらしい。

また

俺も頑張ろうって思えるようになったみたいだ。

だから私はこの試験に受かっていたい。

彼氏の励み

になるというものもあるけど・・

同時に

落ちたら

冷められるんじゃないのか

というものもあった。

正直な話

試験の結果っていちばん本人の予感が鋭かったりする。

明日の今頃には
私はきつと泣いているだろう。

あ、こんな曲あったよな
なんて思っ
て
その夜
彼氏と駅で別れた後

携帯の
無料着うたフルでその曲を検索して
思わず携帯にダウンロードしてみた。

「明日の今頃には
わたしはきつと泣いてる

あなたを思ってるんだろう」

なぜか泣きそうになった。

私が泣くって意味は

試験に落ちて泣くっていう意味なのに。

それとも試験に落ちたのを慰めてほしくて
彼を思っているのかな？

でも私は悲しみを人で癒そうとする人間ではない。

やっぱり・・・

一番怖いのは・・・

12月5日午後12時58分

そんな訳で

結果待ちをしていた。

結果は分かっているはずなのに

なぜか心臓の脈拍が上がるのは

奇跡

というものを信じている
バカな自分がいるから。

よくテレビやドラマであるじゃないですか

死んだはずの人が自分の前に現れたり

もうダメだって思った瞬間仲間が助けに来たり

不思議と浮かぶんだ

家族がどんちゃん騒ぎをして

お父さんが机に足をぶつけるの

予備校でも

先生たちが驚いて

喜んでいて

友達からもしっぱいおめでとうメールがきて

それで

それで

彼氏が

なぜか大きい箱を二つ持ってきて

「お前

チーズケーキが好きなのか

チョコケーキが好きなのか

ド忘れしたから

両方買ってきちゃったよ」

って笑いながら言ってる
私が

「私が好きなのはショートケーキだよ！」

って大笑いして

彼氏が悔しそうな顔で落ち込むから

「両方食べる！」

って後ろから抱きつくの。

それで

「お前って

カレーライス以外にも二つたべられるのか・・・」

12月5日午後1時

私はいそいで結果を見るものの
サーバーが混雑してて
なかなか繋がらない。

ようやく繋がったのは5分後。

私の番号は

7074

なまるなよ
で覚えていた。

記載されていた番号は
7073

の次が

7081

だった。

瞬間の思ったのは

悲しい

悔しい

やっぱりでもなくて

前にいた

小太りで

髪にフケが多いなあって思っていた人が
受かったんだ・・

なんて少し笑ってしまった。

奇跡なんて

やっぱり

私みたいな凡人には与えてくれないらしい。

その場ですこし
ぼーっとしてみた。

意外と
悲しい

辛いつて感情は起きない。

受験勉強の期間
予備校に常にいた

そして

定期代やテキスト代や食費がかかるから
週一の四時間は
予備校の近くのバイト先にいたけど

あとはずっと予備校で
寝るときのみ
家に帰っていた。

電車の中も
単語帳が手放せなくて

同級生の友達の誘いも全部断っていた。

一応勉強はやらなかった
ってわけではなかった。

私自身の中では今までで一番
真剣になったかもしれない。

それでも

悔しいって感情はなにも起きなくて

漢字で表わすと

無だった。

とりあえず

一階にいる家族に言わなきゃと思い

一階に降りた。

お母さんと妹がいた。

妹は相変わらず

学校に行かない自称セレブニートらしい。

お母さんはあえて何も聞かず

「ご飯食べる？」って言う

私は

「ん、一杯で良いよ」

と答えた。

そうしたら妹が

「カレーは二杯たべるくせに
ハヤシライスだと一杯なの？」

つてたずねたから

「大きな違いだよ」

つて答えた。

妹は

「一緒だし！」

つて笑いだした。

お母さんはそのやりとりで察してくれたみたいで
いつにもまして優しい口調だった。

別に二杯食べれた。

落ち込んでいるわけではないから。

ただもう少し浸っていたい。

回りから見た可哀想な自分に・・

一週間もたてば

また元通りで

「これからどうするんだ」

ラッシュが続くから。

それに

本当の私の結果発表はまだ先な気がする。

可哀想な受験生ごっこをするために
散歩に行くことにした。

よくあるじゃん？

人生に落ち込んだ人が川の土手でたそがれているシーン

私もマネしてみようって思ってたみた。

土手に行く途中

予備校に電話した。

「そっか残念だったな。今はゆっくり休んどきなさい」という先生の言葉の後ろで

「先生受かったー！」

「おめでとう！」

「頑張ったな！」

って言葉が次々
こだました。

段々自分が
想像していた奇跡と

現実の差に気付き始める。

友達にもメールした

「そつか・残念だったね。気分転換にまた遊ぼうよ」

「ドンマイだよ！きつともっと向いているモノがあるんだよ」

励ましてくれているのは分かっているけど
なんとなく文面が気に入らなかったので
返信しなかった。

だんだん

私は負けたんだってことに気づく

可哀想な受験生ごっこ

どころか

本当に可哀想な受験生になりつつあった。

きつと家に帰っても

お父さんは足をぶつけないだろうし
家族はきつとテンション低い

そして

彼氏の両手にだって大きな二つの箱はないんだろう。

そして

「俺もどうでもよくなってきちゃった」
って

日々が続いて

新しく入ってきた一生懸命な受験生が来て

その子が受かったら

そっちの方がやる気がでるでしょ？

負け組の受験生より・・・

そして

私は本当の不合格になるんだ。

12月5日午後4時半

夜どころか

もう夕方から泣いてしまった。

やっぱり

奇跡なんて存在しない。

お願いだから

ああいう選ばれた人のみに起こった

まれな事をテレビとかで紹介しないでほしい。

私にも起こるんじゃないかって変な期待をしてしまうじゃん。

そして

現実の差に泣くのは結局自分なんだから・

学校帰りの男子学生に笑われたり

小学生が不思議そうに見ている。

井戸端会議をしている主婦たちもこっちを見ながら話してる。

きっと私のことが話題になっているんだろうな。

12月5日午後6時

メールしてみようか・

彼氏にメールで伝えることにした

伝えなければ

電話かかってきそうだから・

心の準備が整ってない時に
電話をかけられても

途中で切っちゃいそうだから・

件名：結果報告

本文

試験だめだったよ（+o+）
応援してくれてたのにゴメンネ；

すぐに返信が来た

件名：R e：結果報告

本文

なんで謝るの？（笑）
そっか・・残念だったね。

こういう時のメールって
些細なことで不安になってしまう

いつもなら

件名はかならず入れる人なのに・
顔文字だって多いのに・

やっぱりここでも
奇跡は起きない？

すると

またメールが来た。

もしかして

彼から？なんて期待して開くと

メルマガだった。

神様がもしいるとしたら
なんて残酷な存在なんだろうって
思った。

「分ってるよ、期待しても無駄ってことくらい……。」「

ずっと土手でボーっとしていた。
昨日電車の中で聞いた曲を聴きながら

寒いとかどうでもよくて

とりあえず行動しなくなかった。

もう裏切られるのは散々。

携帯も見るのが嫌になって
受信してもすべて無視していた。

明日の今頃には
わたしはきつと泣いてる

「あなたを思ってるんだろう」

突然着信音が鳴り始めた
彼氏からの電話だった。

思わず取ってしまった
別れの電話かもしれないのに

「もしもし・・・」

「もしもし？メール届かなかった？」

「ごめ・・・見れなかった・・・」

「もしかして泣いてる？」

「だって・・・」

一気に感情が溢れた

捨てられるのが怖かった

心変わりが怖かった

私は勉強頑張るって以外なにも取り柄がないから・・・

全部全部気持ちを泣きながら溢した。

「もう・・・なんでそんなに暗く考えるの？」
って笑われてしまった。

「今日これから俺が受ける試験の専門の予備校の説明会だから今御茶ノ水に居るんだ。

だからその前に神社一緒に行こうかなって思ってたメールしたんだけど・・・

返信来ないから気分じゃないのになって。

しかもお前の最寄駅から遠いのになぜわざわざ来させちゃうのも悪いしさ」

私のいじけていた間の溜まったメールのなかに

彼からの二度目のメールもあつたみたいだ。

「ご・ごめん。神社・・？ってか予備校行くことにしたの？」

「お前がどっちの結果だったとしてもお前は俺にやる気を復活させてくれたじゃん？」

だから俺も真剣に答えようって思ってたさ。

神社ってのは、神頼みじゃないよ？俺は神様なんかちっとも信じてないしね。

初詣の本来の目的っていうものは願いをしに行くんじゃない。自分の一年間でやり遂げたい目標を神様に決意しに行くものなんだ。だけど俺は神様じゃなくて自分自身に決意する。まだ初詣には早いけど、俺にとってもお前にとっても今日は区切りが良いじゃんか。今年是一緒に頑張ろう」

彼氏は妙な雑学も詳しい。

たまに本当？って思う雑学まで。

例えば関西人がハーゲンダッツのことを「はげしばく」って言うとか。

絶対嘘だと思うけどね。

でもそんな彼だからこそ好き。

奇跡

なんてなくなつていい。

重要なのは

一緒に頑張ろうと思う大切な人がいること。

そして開き直り。

失敗してもまだ大丈夫。

まだまだ長い人生なんだから。

・私も地元の神社に決意してきた。
すこし早い初詣

今日が終わったなら
また今日からスタートだ。

新たな決意とともに
来年にむけて頑張ろうって思った。

今年は

違う夢だけど

ともに頑張る大切な仲間もいる。

一人じゃない

家に帰ってみたら

案の上だけど家族は暗かった。

だけど私はそんなの関係ない！

さっそくまた勉強しようと思ひ部屋にいこうとしたときに

お父さんが「トイレ」って言うって
トイレに向かって歩こうとしたとき

机に足がぶつかって

「痛い！！！」

つとしゃがみこんだのを

お母さんと

妹は無反応だったけど

私は思わず笑ってしまった。

やってくれます。私のお父さん。

（後書き）

ここまで読んでいただき本当ありがとうございます。私自身公に公開する小説はこれが初めてなので拙い部分たくさんあると思いますがお許しください（；――）すみません・・。この小説は私小説です。多少脚色はしてありますが・・（実際の彼氏はもっとキツイし口悪いしww私自身は一人っ子ですので）私自身公務員試験を受験したのですが最終発表で落ちてしまいました（・・）―その時の気持ちを小説にしてみようと考え投稿しました！共感できる方がいらっしやれば幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5062d/>

終わりは始まり

2010年12月31日02時03分発行